

喫煙の影響などについて中路重之氏(弘前大学大学院 医学研究科科長)に聞きました

弘前大学大学院
医学研究科科長



—愛煙家の肩身が狭くなっている昨今ですが、あらためて、たばこ健康の関係をお教えください。

「興味深いデータがあります。県内で、たばこを吸う人と吸わない人の計5万3千人を、1990年から5年間にわたって調査しました。吸う人が、残り何年生きることができるか比べてところ、40〜44歳で、吸っている人は吸わない人比べて2・85歳短くなりました。この差を平均寿命に換算すると、統計上、5歳は超えると思います」

「国立がん研究センターの分析だと、喫煙によってがんになりやすいリスクは、たばこの煙が体に入る

順番に高くなっています。たとえば、のどぼとけの辺りにある喉頭がんは5・5倍、肺がんは4・8倍、食道がんは3・4倍。意外にぼうこうなど尿路のがんも5・4倍と高いです」

「たばこの関係が深いがんは治療が大変です。肺がんの5年生存率、つまり、がんと診断された患者が5年後に生存している確率は、現在も40%前後にとどまっています。青森県は男女とも、全国的に喫煙率が上位。たばこを吸わない周囲の人が、煙りを吸わされる受動喫煙の影響も問題となっています」

がんを誘発 短命に影響

「たばこの害を分かっている人も、なかなかやめられないという声も聞きますが、最大の敵はニコチン依存症。ニコチン中毒です。中毒かどうかは、起床してから、依存度が高いと考えられます。たばこの害を分かっている人も、なかなかやめられないという声も聞きますが、最大の敵はニコチン依存症。ニコチン中毒です。中毒かどうかは、起床してから、依存度が高いと考えられます。」

「たばこの害を分かっている人も、なかなかやめられないという声も聞きますが、最大の敵はニコチン依存症。ニコチン中毒です。中毒かどうかは、起床してから、依存度が高いと考えられます。」

「たばこの害を分かっている人も、なかなかやめられないという声も聞きますが、最大の敵はニコチン依存症。ニコチン中毒です。中毒かどうかは、起床してから、依存度が高いと考えられます。」

「たばこを吸ってもがんにならない人もいますが、たばこを吸っていても101歳まで長生きしました。また、日本人男性の喫煙率は米国人に比べて高いですが、肺がんの死亡率は低いです。だから『たばこは健康に悪くない』という理屈があります。日本人がたばこに対して、体質的に強いという考えもありますが、はつきりとした理由は不明です」

「たばこが肺がんを引き起こすという研究結果に変わりはありません。お母さん自身にとっても悲しいことです」